

2022 年度後期
「授業改善のための学生アンケート」結果報告書

白百合女子大学

目 次

1. 2022 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要	
① 目的	1
② 実施概要	1
③ 実施方法	1
④ 設問の内容	2
⑤ 実施科目数	4
2. 2022 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 集計結果	
① 学部	5
3. 2022 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 みなさんの声に応えて	
① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ	10
② FD推進委員会および事務部署からのメッセージ	12
4. 2022 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 顕彰授業	
① 顕彰授業	13
② 顕彰授業における工夫	14

1. 2022 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的

- 1) さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- 2) 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- 3) 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- 4) 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- 5) 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

② 実施概要

実施期間：2023年1月11日（水）～1月31日（火）

実施対象：原則としてすべての通年および後期多人数科目

（多人数科目とは、原則として履修者が26名以上の科目をいう。ただし授業形態や、学科・センターの指定により、対象科目を増減する場合があります）

調査方式：CampusSquare（Web） 自由記述欄あり（p.3,4 参照）

※学部・大学院統一フォーム

調査所要時間：約10分

③ 実施方法

- 1) 授業終了の10分前を目安に、履修学生にアンケート回答時間を設ける。回答は原則として授業時間内に行う。
- 2) 授業担当教員は、学生に対し実施目的をよく読み、回答を行うように指示する。
- 3) 回答が完了しない学生が生じた場合は、実施期間中の任意の時間に、回答を行うように指示する。

④ 設問の内容

設問と回答選択肢は以下の通り。

- Q1 この授業にどの程度出席しましたか。
Ⅰ. すべて出席した Ⅱ. 半期で1～2度欠席した
Ⅲ. 半期で3～4度欠席した Ⅳ. 半期で3分の1以上欠席した
- Q2 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。
Ⅰ. 週2時間以上 Ⅱ. 週1～2時間 Ⅲ. 週30分～1時間
Ⅳ. 週0分～30分 Ⅴ. 全くしていない
- Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
Ⅰ. 十分にできた Ⅱ. どちらかと言えばできた Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばできなかった Ⅴ. 全くできなかった
- Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
Ⅰ. 十分にできた Ⅱ. どちらかと言えばできた Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばできなかった Ⅴ. 全くできなかった
- Q5 この授業のシラバスを事前にしっかり読みましたか。
Ⅰ. 十分に読みこんだ Ⅱ. どちらかと言えば読んだ Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えば読まなかった Ⅴ. 全く読まなかった
- Q6 この授業の内容はシラバスに沿ったものでしたか。
Ⅰ. 十分シラバスに沿ったものだった Ⅱ. どちらかと言えば沿ったものだった
Ⅲ. どちらとも言えない Ⅳ. どちらかと言えばあまり沿っていません Ⅴ. 全く沿っていません
- Q7 教員の説明はわかりやすかったですか。
Ⅰ. 大変わかりやすかった Ⅱ. どちらかと言えばわかりやすかった Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばわかりやすくなかった Ⅴ. 全くわかりやすくなかった
- Q8 教科書や配布資料など、教材は適切でしたか。
Ⅰ. 大変適切だった Ⅱ. どちらかと言えば適切だった Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えば適切ではなかった Ⅴ. 全く適切ではなかった
- Q9 (大学院科目対象外) 板書(パワーポイント等も含む)はわかりやすかったですか。
Ⅰ. 大変わかりやすかった Ⅱ. どちらかと言えばわかりやすかった Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばわかりやすくなかった Ⅴ. 全くわかりやすくなかった
- Q10 この授業で課される課題の量は適切ですか。
Ⅰ. 大変適切だった Ⅱ. どちらかと言えば適切だった Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えば適切ではなかった Ⅴ. 全く適切ではなかった

- Q11 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切でしたか。
Ⅰ. 大変適切だった Ⅱ. どちらかと言えば適切だった Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えば適切ではなかった Ⅴ. 全く適切ではなかった
- Q12 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていましたか。
Ⅰ. 十分行き届いていた Ⅱ. どちらかと言えば行き届いていた Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えば行き届いていなかった Ⅴ. 全く行き届いていなかった
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
Ⅰ. 十分にできた Ⅱ. どちらかと言えばできた Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばできなかった Ⅴ. 全くできなかった
- Q14 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
Ⅰ. 十分にできた Ⅱ. どちらかと言えばできた Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばできなかった Ⅴ. 全くできなかった
- Q15 この授業の進度は適切でしたか。
Ⅰ. 速すぎる Ⅱ. どちらかと言えば速い Ⅲ. ちょうど良い
Ⅳ. どちらかと言えば遅い Ⅴ. 遅すぎる
- Q16 この授業の難易度は適切でしたか。
Ⅰ. 努力したが理解できなかった Ⅱ. 理解するのに多大な努力を要した
Ⅲ. 通常の努力で理解できた Ⅳ. ほとんど努力せずに理解できた
Ⅴ. 新たに学ぶことはなかった
- Q17 (大学院科目対象外) この授業の履修人数は適切でしたか。
Ⅰ. 多すぎる Ⅱ. どちらかと言えば多い Ⅲ. ちょうど良い
Ⅳ. どちらかと言えば少ない Ⅴ. 少なすぎる
- Q18 教室の設備は適切でしたか。
Ⅰ. 大変適切だった Ⅱ. どちらかと言えば適切だった Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えば適切ではなかった Ⅴ. 全く適切ではなかった
- Q19 必要な資料は研究室・図書館などに備えられていましたか。
Ⅰ. 十分備えられていた Ⅱ. どちらかと言えば備えられていた Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えば備えられていなかった Ⅴ. 全く備えられていなかった
- Q20 この科目の総合評価をききます。この授業を履修したことに満足していますか。
Ⅰ. 大変満足している Ⅱ. どちらかと言えば満足している Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えば満足していない Ⅴ. 全く満足していない
- Q21 この授業について、良かった点を、自由に記述してください。
- Q22 この授業について、改善してほしい点を、自由に記述してください。

- Q23 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることなどを、自由に記述してください。
- Q24 (教員より指示があった場合のみ回答) ※教員個別設定質問
- Q25 この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だと思いますか。
Ⅰ. はい Ⅱ. いいえ
- Q26 (Q25で「いいえ」と答えた人のみ回答) 欠けている項目、不適切な項目などを、具体的に記述してください。
- Q27 この授業を遠隔授業として受講した(している)際の通信状態について教えてください。
Ⅰ. 問題なく受信できている
Ⅱ. ときどき途切れることがある
Ⅲ. 頻繁に途切れて問題が生じている
- Q28 (Q27の回答がⅡまたはⅢの場合のみ回答) 現在の通信状況について、具体的な状況、使用機器等を教えてください。

⑤ 実施科目数

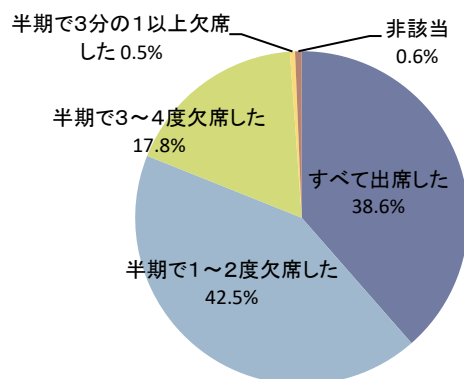
193 科目 (学部科目のみ)

2. 2022年度後期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

① 学部

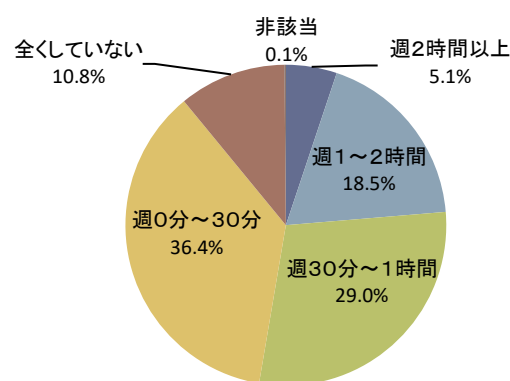
Q1 この授業にどの程度出席しましたか。

No.	Category	度数	%
1	すべて出席した	1,081	38.6%
2	半期で1～2度欠席した	1,192	42.5%
3	半期で3～4度欠席した	499	17.8%
4	半期で3分の1以上欠席した	14	0.5%
5	非該当	18	0.6%
	合計	2,804	



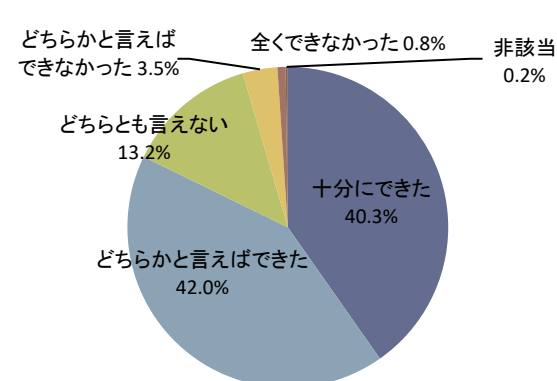
Q2 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	144	5.1%
2	週1～2時間	520	18.5%
3	週30分～1時間	813	29.0%
4	週0分～30分	1,020	36.4%
5	全くしていない	303	10.8%
6	非該当	4	0.1%
	合計	2,804	



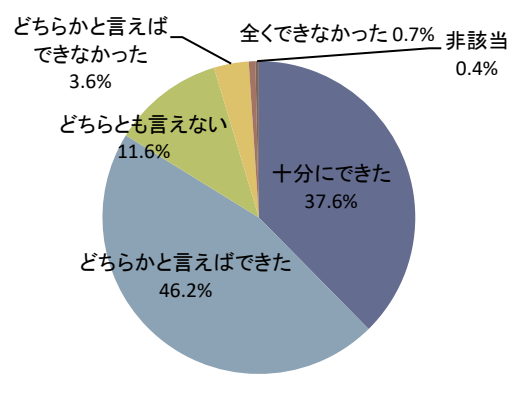
Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。

No.	Category	度数	%
1	十分にできた	1,129	40.3%
2	どちらかと言えばできた	1,177	42.0%
3	どちらとも言えない	371	13.2%
4	どちらかと言えばできなかった	98	3.5%
5	全くできなかった	23	0.8%
6	非該当	6	0.2%
	合計	2,804	



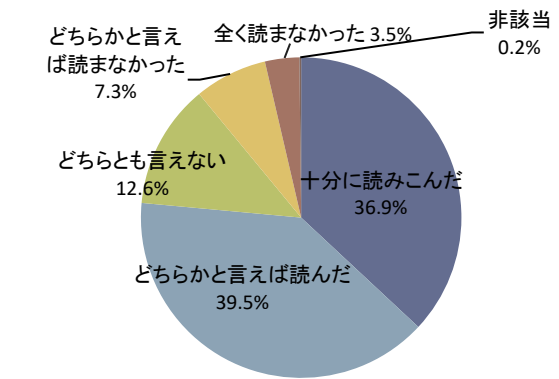
Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。

No.	Category	度数	%
1	十分にできた	1,055	37.6%
2	どちらかと言えばできた	1,295	46.2%
3	どちらとも言えない	324	11.6%
4	どちらかと言えばできなかった	101	3.6%
5	全くできなかった	19	0.7%
6	非該当	10	0.4%
	合計	2,804	



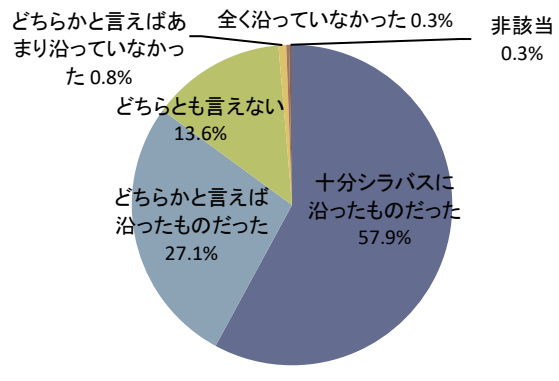
Q5 この授業のシラバスを事前にしっかり読みましたか。

No.	Category	度数	%
1	十分に読みこんだ	1,036	36.9%
2	どちらかと言えば読んだ	1,108	39.5%
3	どちらとも言えない	352	12.6%
4	どちらかと言えば読まなかった	206	7.3%
5	全く読まなかった	97	3.5%
6	非該当	5	0.2%
	合計	2,804	



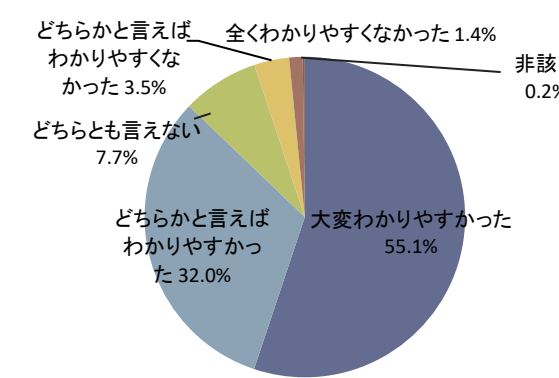
Q6 この授業の内容はシラバスに沿ったものでしたか。

No.	Category	度数	%
1	十分シラバスに沿ったものだった	1,624	57.9%
2	どちらかと言えば沿ったものだった	761	27.1%
3	どちらとも言えない	381	13.6%
4	どちらかと言えばあまり沿っていなかった	22	0.8%
5	全く沿っていなかった	8	0.3%
6	非該当	8	0.3%
	合計	2,804	



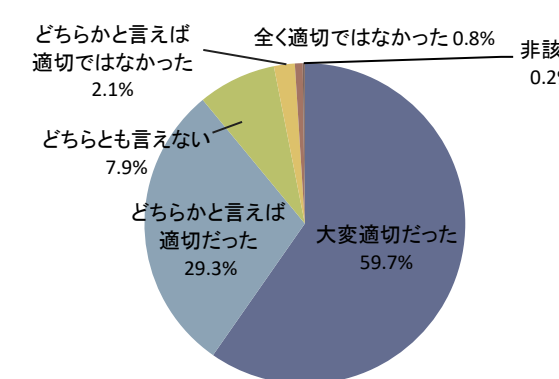
Q7 教員の説明はわかりやすかったですか。

No.	Category	度数	%
1	大変わかりやすかった	1,546	55.1%
2	どちらかと言えばわかりやすかった	898	32.0%
3	どちらとも言えない	217	7.7%
4	どちらかと言えばわかりやすくなかった	99	3.5%
5	全くわかりやすくなかった	38	1.4%
6	非該当	6	0.2%
	合計	2,804	



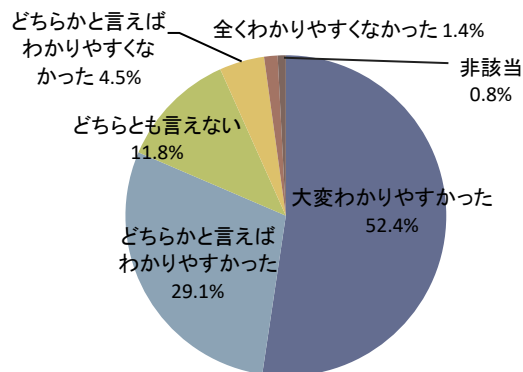
Q8 教科書や配布資料など、教材は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	大変適切だった	1,674	59.7%
2	どちらかと言えば適切だった	822	29.3%
3	どちらとも言えない	221	7.9%
4	どちらかと言えば適切ではなかった	59	2.1%
5	全く適切ではなかった	22	0.8%
6	非該当	6	0.2%
	合計	2,804	



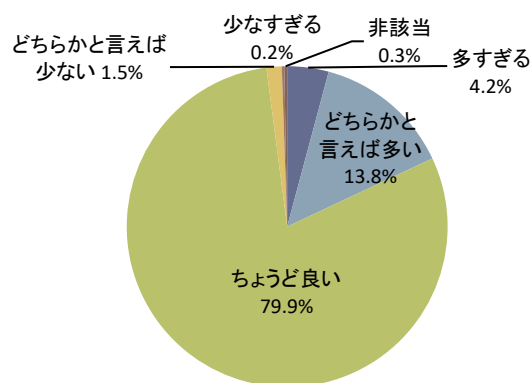
Q 9 (大学院科目対象外) 板書(パワーポイント等も含む)はわかりやすかったですか。

No.	Category	度数	%
1	大変わかりやすかった	1,468	52.4%
2	どちらかと言えばわかりやすかった	816	29.1%
3	どちらとも言えない	332	11.8%
4	どちらかと言えばわかりやすくなかった	127	4.5%
5	全くわかりやすくなかった	38	1.4%
6	非該当	23	0.8%
	合計	2,804	



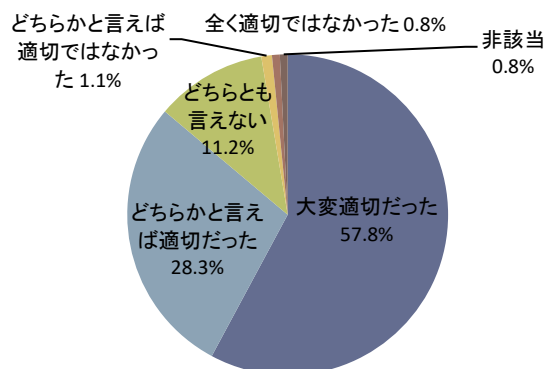
Q 10 この授業で課される課題の量は適切ですか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	117	4.2%
2	どちらかと言えば多い	388	13.8%
3	ちょうど良い	2,241	79.9%
4	どちらかと言えば少ない	43	1.5%
5	少なすぎる	7	0.2%
6	非該当	8	0.3%
	合計	2,804	



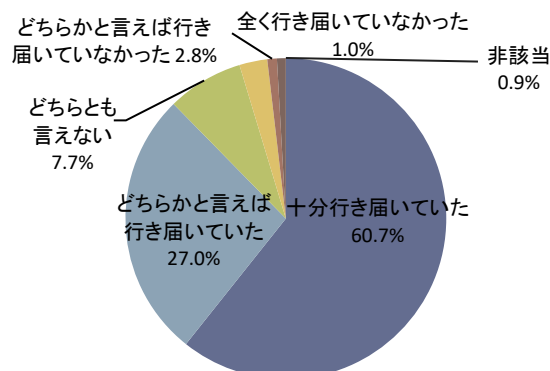
Q 11 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	大変適切だった	1,622	57.8%
2	どちらかと言えば適切だった	793	28.3%
3	どちらとも言えない	315	11.2%
4	どちらかと言えば適切ではなかった	30	1.1%
5	全く適切ではなかった	22	0.8%
6	非該当	22	0.8%
	合計	2,804	



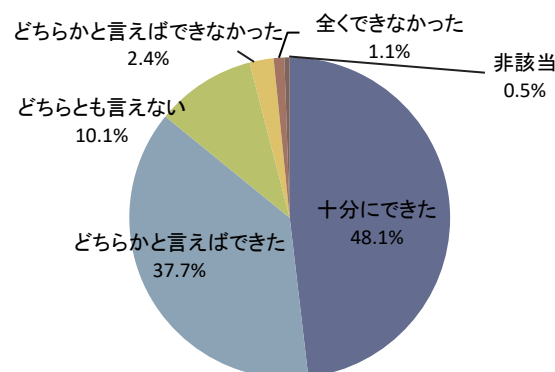
Q 12 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていましたか。

No.	Category	度数	%
1	十分行き届いていた	1,702	60.7%
2	どちらかと言えば行き届いていた	756	27.0%
3	どちらとも言えない	215	7.7%
4	どちらかと言えば行き届いていなかった	79	2.8%
5	全く行き届いていなかった	27	1.0%
6	非該当	25	0.9%
	合計	2,804	



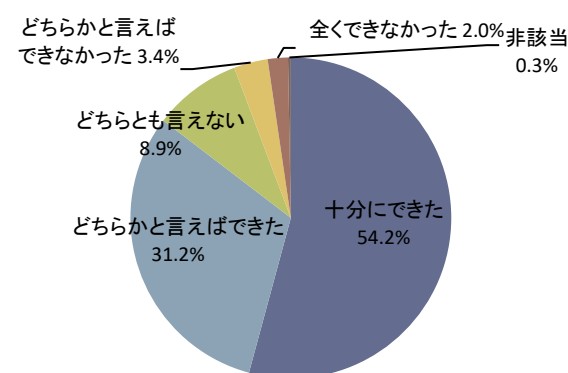
Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。

No.	Category	度数	%
1	十分にできた	1,350	48.1%
2	どちらかと言えばできた	1,058	37.7%
3	どちらとも言えない	283	10.1%
4	どちらかと言えばできなかった	68	2.4%
5	全くできなかった	30	1.1%
6	非該当	15	0.5%
	合計	2,804	



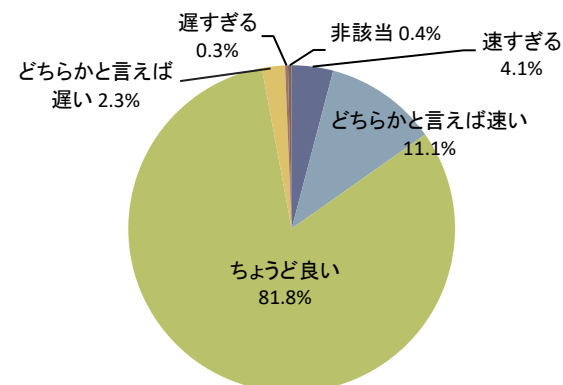
Q14 この授業の内容に興味を持つことができましたか。

No.	Category	度数	%
1	十分にできた	1,520	54.2%
2	どちらかと言えばできた	874	31.2%
3	どちらとも言えない	249	8.9%
4	どちらかと言えばできなかった	96	3.4%
5	全くできなかった	57	2.0%
6	非該当	8	0.3%
	合計	2,804	



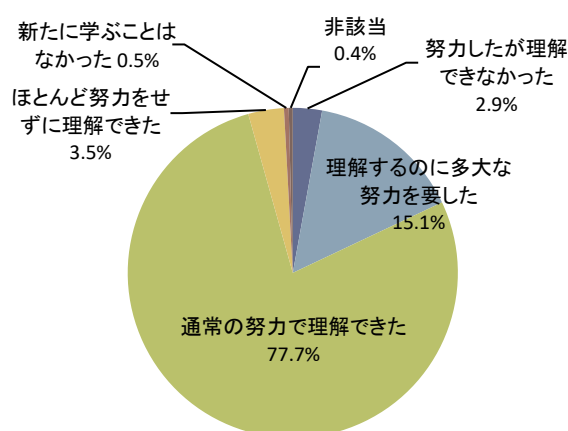
Q15 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	115	4.1%
2	どちらかと言えば速い	312	11.1%
3	ちょうど良い	2,295	81.8%
4	どちらかと言えば遅い	64	2.3%
5	遅すぎる	8	0.3%
6	非該当	10	0.4%
	合計	2,804	



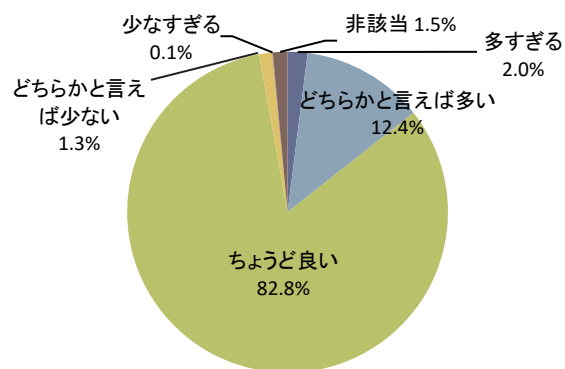
Q16 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	努力したが理解できなかった	80	2.9%
2	理解するのに多大な努力を要した	424	15.1%
3	通常の努力で理解できた	2,178	77.7%
4	ほとんど努力をせずに理解できた	98	3.5%
5	新たに学ぶことはなかった	13	0.5%
6	非該当	11	0.4%
	合計	2,804	



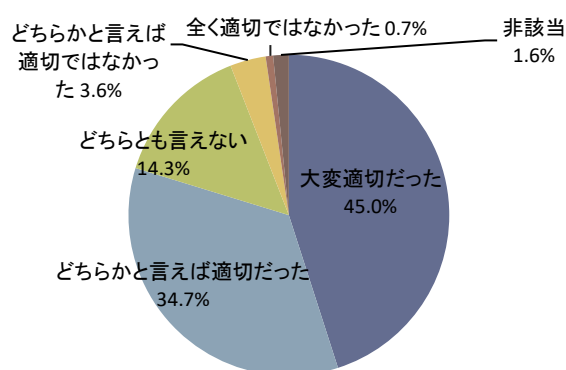
Q17 (大学院科目対象外) この授業の履修人数は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	56	2.0%
2	どちらかと言えば多い	347	12.4%
3	ちょうど良い	2,321	82.8%
4	どちらかと言えば少ない	37	1.3%
5	少なすぎる	2	0.1%
6	非該当	41	1.5%
	合計	2,804	



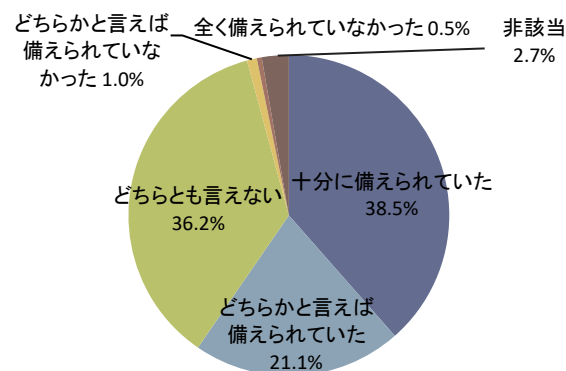
Q18 教室の設備は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	大変適切だった	1,263	45.0%
2	どちらかと言えば適切だった	973	34.7%
3	どちらとも言えない	402	14.3%
4	どちらかと言えば適切ではなかった	101	3.6%
5	全く適切ではなかった	21	0.7%
6	非該当	44	1.6%
	合計	2,804	



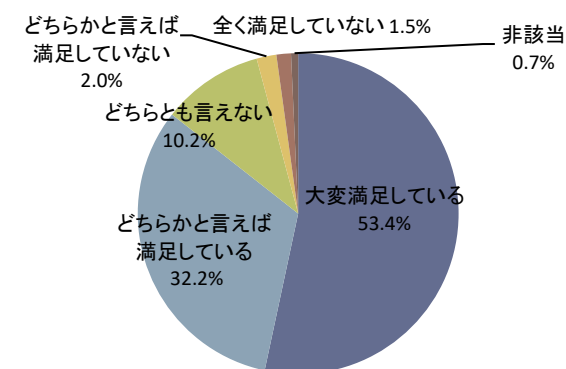
Q19 必要な資料は研究室・図書館などに備えられていましたか。

No.	Category	度数	%
1	十分に備えられていた	1,080	38.5%
2	どちらかと言えば備えられていた	591	21.1%
3	どちらとも言えない	1,015	36.2%
4	どちらかと言えば備えられていなかった	28	1.0%
5	全く備えられていなかった	14	0.5%
6	非該当	76	2.7%
	合計	2,804	



Q20 この科目の総合評価をききます。この授業を履修したことに満足していますか。

No.	Category	度数	%
1	大変満足している	1,496	53.4%
2	どちらかと言えば満足している	904	32.2%
3	どちらとも言えない	287	10.2%
4	どちらかと言えば満足していない	56	2.0%
5	全く満足していない	41	1.5%
6	非該当	20	0.7%
	合計	2,804	



3. 2022 年度後期「授業改善のための学生アンケート」みなさんの声に応じて

学生の皆さんが回答してくれたアンケート結果は、個人が特定されないように集計された後、自由記述も含めて、担当教員へすべて確実に届いています。この章では、アンケートを通じて届けられたみなさんの声に応じて、授業担当教員、FD 推進委員会、事務部署からのメッセージをお届けいたします。

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ

歴史の中の音楽	金井 玲子	2022/水 1/後期
<p>【Q9「板書」について】どちらともいえない2名、どちらかといえばわかりやすくなかった1名→パワポを見直し、より見やすくなるように工夫したいと思います。</p> <p>【Q11 学生の質問に対して】どちらともいえない4名→リアクションペーパーでの質問についての丁寧な応答を心がけます。</p> <p>【Q22 改善してほしい点】教室が寒いという意見が多数、パワポの進みが速いとの意見2名→どちらも、リアクションペーパーで言われていたことで、十分に改良できなくて申し訳ないと思います。寒いということに関しては、暖房の設定28度くらいにしていますが、換気をしていたこともあり、あまり効果が無かったようで、大学側にも相談したいと思います。</p>		

韓国語（初級）	丹羽 裕美	2022/月4・水4/通年
<p>皆さまからのメッセージコメントに励まされました。私も楽しく授業させて頂きました。1年間ありがとうございました。</p>		

近代文学講義C	宮本 啓子	2022/金4/通年
<p>自由記述【「鬱々としていたり、性的描写が多く見るのが苦痛だった」という意見について】</p> <p>今年の作品のなかで鬱々としていたのは『金閣寺』、性を扱っていたのは『ぬるい毒』でしょうか。そう感じる受講生がいることを想定して、作品選定では暴力的だったりリアルすぎたりするものはできる限り避けています。また22年度は暗い作品の間に予定になかった宝塚の音楽劇や三谷幸喜の喜劇作品も入れてみました。それで対応できたと思っていましたが、まだ配慮が足りなかったのかもしれません。</p> <p>しかし演劇が社会を映し出す芸術であるとするなら、現代の多くの優れた演劇は、小説なども同様ですが、あまり明るくないし、時には性的な問題も描いています。そのことをご理解ください。</p> <p>今後、作品選定にあたっては細心の注意を払い、そういう作品が含まれている場合は事前にお知らせしますね。最後になりましたが貴重なご意見をありがとうございました。</p>		

文学史（近代）	名木橋 忠大	2022/木 2/通年
<p>【Q21 について】〈有名な作品が有名である理由を知ることが出来た〉〈資料に細かく説明が書いてあり分かりやすかった〉〈実際の作品が一部貼り付けてあることで理解しやすく、また収録作品を読んでみたいという気持ちにもなった〉といったご意見を頂戴しました。ありがとうございます。本授業では作品の文学史的価値を理解していただくため、内容と表現の関連をわかりやすくお伝えする工夫を重ねました。その点を評価していただき大変うれしく思います。これからも、文学史に興味深く学んでいただけますよう努力します。</p>		

国語国文学特講（演劇）	安富 順	2022/金 2/通年
<p>アンケートへのご協力をありがとうございます。今年度講義に関しては、全体的に好評裡に終えられたようで、安堵しております。皆さん方のご協力のおかげであります。深謝申し上げます。</p> <p>皆さん方よりのご意見・ご指摘は、23年度の講義構想を構築する上で、大変参考となりました。御礼を申し上げます。当該講義が演劇、とりわけ古典演劇に興味を持つきっかけとなるよう、より一層努めたく存じます。</p> <p>なお、登録学生数に対し使用教室が広すぎるという指摘は、例年寄せられます。これは担当教員では如何ともしがたことであります。何卒ご理解・ご諒解を賜りたく存じます。</p>		

フランス社会文化研究 E	畠山 香奈	2022/月 3/後期
<p>【Q22 「レスポン」について】授業の冒頭でレスポンの番号を口頭で伝えていたが、今回の授業アンケートで言うのではなく、書いてほしいという意見があった。今後はそのように対応していきたい。</p>		

マンガ論 B	宮本 大人	2022/水 2/後期
<p>全体に高評価で、自由記述の感想を見ても、授業の狙いを的確に受け止めてもらっているようで何よりです。</p> <p>Q22 の改善してほしい点として挙げられている授業内課題が事前にやってくるものの方がよかったという点については、マンガ論 A がその形式なので、意図的に B では授業内でやってもらう形にしています。コロナ対応がもう少し緩めば、この授業内課題についてその場で議論することも想定してこの形にしていますのでご理解ください。</p>		

② FD 推進委員会からのメッセージ

「授業改善のための学生アンケート」は、その名の通り、本学で学ぶ学生の皆さんが、受講する授業を通じてより充実した学びを得られるよう、学期ごとに実施されています。

授業を担当する各教員は、アンケートの結果を受けて、次学期・次年度の各科目各授業の構成や流れ、課題内容や頻度、分量等について、あらためて検討し直します。教員も人間ですので、担当授業に対して好意的なりアクションや建設的なアドバイスが返ってくるととても嬉しく、また厳しいご意見をいただくと残念に思ったり申し訳なく感じたりもします。が、半期にわたって実際にご一緒した受講生の皆さんからの声はどの教員にとっても貴重で、より充実した学びの提供のために授業準備と運営を頑張っていくうえで大きなモチベーションとなることは間違いありません。

2019 年度まで、本学では用紙を授業中に配布・回収する形式でアンケートを実施していましたが、新型コロナウイルス禍に見舞われた 2020 年度からオンライン実施となりました。とても残念なのは、用紙での配布・回収を行っていた 2019 年度まで 8 割程度あったこのアンケートの回収率・回答率が、2020 年度以降、3 割程度に落ち込んで推移していることです。回答の手軽さやデータの扱いに関してなど、アンケートに回答する学生の皆さんと本学教職員の双方にとってメリットも大きいオンライン実施ですが、回答すること自体への学生の皆さんのインセンティブを高めていく必要があるな、と感じています。

『授業改善のための学生アンケート』に答えることは、受講する私にとっても、また今後受講する他の学生にとってもメリットになる。」いっそう多くの皆さんにそう感じていただけるよう、アンケートの検討を続けていきます。

③ 事務部署（管財課）からのメッセージ

この度は教室機材また空調設備ではご不便、ご不快をおかけしまして大変申し訳ございません。アンケートの中でご指摘いただいた、1308 教室、9012 教室は機材の調整や修繕も完了し快適にご使用いただけます。授業内での教室設備の使用方法について不明な点があるようでしたら、ご連絡いただければその場で調整や説明することができます。

またコロナ禍の中、教室等の衛生環境については 3 密回避を行うため特に換気については重要視して換気設備の導入を図り感染防止対策を最優先いたしました。反面、多数の窓の開放もあって冬場では教室内の温度が急激に下がり室温も安定せず不快な暖まりにくい教室がいくつかありました。

今後は必要な機械換気を設けて窓の開放も最小限に留め善処していく所存です。皆様から貴重なご意見をいただきありがとうございます。ありがとうございました。

「授業改善のための学生アンケート」2022年度後期 顕彰授業について

2023年4月27日

白百合女子大学FD推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は2010年度より実施し、2017年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお今後は2年間で全科目のアンケートを実施することとし、2022年度は履修者数が概ね26名以上の授業についてアンケートを実施いたしました。

2022年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2022年度後期

火5後 「子どものイメージ」森下 みさ子 教授 (人間総合学部児童文化学科)

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的 (実施要領より抜粋)

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の7項目(項目毎の平均点の合計/35点満点)とする。
 - Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
 - Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
 - Q7 教員の説明はわかりやすかったですか。
 - Q8 教科書や配布資料など、教材は適切でしたか。
 - Q11 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切でしたか。
 - Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
 - Q14 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業とする。
- ⑤ 顕彰対象は各学期第1位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業・担当教員名は、大学Webサイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学FD推進委員会

以上

「授業改善のための学生アンケート」2022 年度後期 顕彰授業における工夫

2022 年度後期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

【参考】 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の 7 項目です。

- Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
- Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
- Q7 教員の説明はわかりやすかったですか。
- Q8 教科書や配布資料など、教材は適切でしたか。
- Q11 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切でしたか。
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
- Q14 この授業の内容に興味を持つことができましたか。

< 顕彰授業 >

「子どものイメージ」 森下 みさ子教授（人間総合学部児童文化学科） 2022 火 5 後期

始まる頃には日が暮れて真っ暗な 5 限目ですが、人間総合学部の 3 学科が履修する学部共通科目のひとつなので 80 名ほどの受講生がいました。しかも、ようやく対面授業ができるようになった後期、3 学科が集うことで生まれる「知的化学反応」を生で (!) 実感してもらいたいと思いました。

① 「今、ここ」力を磨いて！

もしかしたら倍速で聴かれていたかもしれないオンライン授業と違って、生の人間のリズムで動いていく授業の良さは、提供される情報を受け取りながら「考える」ことができることです。「今、ここ」に集中することで、どの情報が大切かとらえると同時に、それを自分はどう考えるか、の両刀使いが可能になります。溢れている情報に流されないように「考える」こと、現代社会に出たときに役立つ力ですし、授業の対象となっている「子ども」自身が自ずと持っている力でもあります。「今、ここ」力を身に付けることを掲げ、よみがえった対面授業を活かすことを試みました。具体的には、毎回のテーマもそうですが、授業のなかでも「？」を投げかけて「考える」こと、ノートに要点だけでなく感じたことや考えたことを書き込んでマイノートを「育てる」ことを勧めました。

② 特別企画展の案内、のつもり

もちろん掲げるだけではだめで、受講生が「今、ここ」で「集中」して考えたいような材料を提供しなくてはなりません。「子どものイメージ」ですから、ピーターパンやハイジ、しんちゃん（『クレヨンしんちゃん』）、宮崎アニメの子どもたち等、受講生が自ずと関心をもつ映像は適宜とり入れました。ほかにも説明の部分で TV 番組の録画や YouTube の

動画（遠隔授業で蓄えました）にも助けてもらいました。絵巻や浮世絵や童画の「子ども」、児童文学や絵本に登場する「子ども」等の画像も、美術館の特別企画展を案内するような気持ちで、パワポを使って必要に応じて立ち止まりながら（対面の良さです）見てもらいました。その際、見るポイントを指示しておくことで、初めて見るものはもちろんのこと、慣れ親しんだ映像や画像も「再発見」しつつ「考え」ながら見ることができましたようです。

③ マナバに学ぶ

②を進める上でも、コロナ禍で修得したマナバコースのテクが役に立ちました。自他共に認めるデジタルオンチですが、基礎教育の先生方にていねいに教えていただいたおかげで、いくつかの機能を使って便利に楽しく進めることができるようになりました。特にレスポンは、学生の発見や感想・考えを私が受け取るだけでなく、その場で紹介する形で学生同士が学ぶ機会にもなったようです。自由記述の他にも選択機能を使って即座に円グラフを提示して解説するなど、私自身も発見し分析し考えつつ授業を楽しむことができました。あらかじめ仕込んでおくことができるので、どのあたりでスマホを出してもらうか、授業にメリハリをつけた準備もできます。少し時間を要する時は、その日のシンデレラタイム（深夜0時）まで開けておき、翌週の授業の初めに共有して解説を加えるようにしました。

④ 時々、インタビュー

その場で表示するレスポンの場合、匿名性が高いので意見を出しやすい反面、どの学科の人なのかはわかりませんし、もっと訊きたいと思ってもその先のやり取りができません。文字には現れない声のニュアンスや表情を受け取ることもできません。そこで、質問によっては（感染対策をしながら）何人かにインタビューをして回りました。3学科が混じる学生の意見は面白く、笑ったり、考え込んだり、答える人だけでなく、その答えを聞いた人の反応も含めて、教室の空気が活性化するのを感じました。

振り返ってみると、3学科の受講生に生じることを狙っていた「知的化学反応」は、私自身にも起こっていたようです。「子どものイメージ」を手がかりに文化・心理・教育のトライアングルの奥に人間の原点が在ることを、ますます実感することができました。また、当初はコロナ禍で強いられたことですが、それを潜り抜けてデジタルとアナログの両方を活用する道も開けてきた気がします。今後は、この二刀流の腕も磨いていきたいと考えています。

